

翔洋

P T A ・ 学校通信
厚岸翔洋高校 P T A
総務部編集
No. 43

卒業そして新たな船出へ

三年 海洋資源科担任

菊地 翼

ご卒業、おめでとうございます。そして、これをご覧の保護者を含めた関係者の皆様、高校段階までの子育て、本当にお疲れさまでした。日々のお弁当作りや送迎などのお子様のサポートのおかげで「卒業」を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

私は四回目の卒業担任となりましたが、二学年後期からの途中交代かつ数学の先生が海洋資源科の担任ということで、戸惑いと困難の連続でした。専門知識不足のため、ご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

四月からは三年K組二十四名が自ら決めた進路に進みます。新型コロナウイルスの影響で先行きが見えない中で新生活となるので、期待よりも不安の方が大きいかもしれません。迷いや悩みがあったら先生方や保護者など信頼できる大人にアドバイスをもらってください。必ずヒントが見つかるはずです。

先日、あるTV番組で箱根駅伝総合優勝した青山学院大学陸上競技部監督の原晋氏が「何かに挑戦して失敗した学生を叱ってはいけない。挑戦をやめて指示待ち人間になってしまう。」とおっしゃっていました。私も普段から意識していることで、とても自信に繋がる一言でした。三年K組の生徒は「社会」という荒波の中でこれから挑戦し続けます。彼らの夢や目標に対して現実が乖離していると「それはダメだ。○○しなさい。」と言いがちになりますが、私は「思い切ってやってごらん。」と、適切な助言をした上で背中を押してあげられる大人でありたいと思っています。失敗しない唯一の方法は「何もしない」ことです。しかし、何も生まれません。彼ら自身が挑戦し続け、決断し、大きな成果を挙げる日を楽しみにしています。今までで一番素敵なクラスの担任をさせていただきます。ありがとうございます。

…三年間の軌跡…



1 - A



1 - B

平成21年4月1日、厚岸潮見高校と厚岸水産高校の統合により「翔洋」と称して発刊しました。「翔洋」からは、「大きな太平洋にはばたく前向きなイメージ」が連想されます。



3年 海洋資源科
(生産コース)



普通科



学校祭（1年）



3年 海洋資源科
(調理コース)



宿泊研修



体育大会（2年）

言葉は心のかたち

三年 普通科担任

高橋 直輝

「まあ、すぐに帰ってくるから（笑）」と言い、地元を出て八年ほど経ちました。様々な縁があり、担任を務め、卒業生を送り出すことができて純粋に嬉しく思います。卒業おめでとう。

あなた達は仲が良いんだか悪いんだか、賢いと思っただけの賢いし、ちょっと良いなと思えたらとんでもないことしかしたり…。3年生のみんなのお陰で、刺激的な毎日をごさせていただきました。

そんなみんなに「言葉の力」と題し、この話を最後に届けようと思います。

今まで多くの困難がありました。きっとこれからはあります。その中で、ずっと私の心の支えになった一通の手紙があります。私が大学進学により地元を離れた際、当時十才の弟からいただいたものです。以下内容原文ママ（誤字脱字多め。ご愛嬌。）

『こんにちは!! ボクの名前は、高橋亮太です。あなたも、高橋ですよ。同じなのは家族だからです。あなたが死んでもいいし、よう家族です。地球がほろびてもよくとあなたが、家族です。だから遠くにいてもいいし、えいえんに家族です。そのことをおわすれなく。あとバカな人にならないでくだい。もしもあなたが「バカカ」になったと思ったらこの手紙をよんであなたがいい自分を取りもどしてください。大学の四年間がんばってください。』

やらなきゃいけないことがあるのに逃げそうになったり、嫌なこと目をしてしまったり。そうして、「バカな人」にならないよう目を覚まさせてもらいます。十才の子からいただいた言葉が私の支えです。

「言葉は武器だ」と伝え続けてきました。使い方を間違えないでください。誰かの心の支えになるような言葉をかけてあげてください。そのために「バカな人」にならないでください。そして、家族を大切にね。両親、兄弟姉妹、いつか生まれる子どもに伝えること。死んでもいいし、よう家族だよ。あなたは最初からひとりじゃないよ。

「あんたいつ帰ってくるの?」…姉のプレッシャーを感じながら九年目突入。



校長

福田雅人

お互いさま

先日、ある新聞で考えさせられる投書を読みました。六十七歳の男性からの投書であったのですが、「自分が子どもの頃は、学校でも家庭でも『親切にしない』とよく言われたが、最近ではあまり聞かなくなった。一方、『他人に迷惑をかけるな』の声は年を追うごとに強くなったように思う。『親切にしたり、されたり。迷惑をかけたなり、かけられたり』。そんな『お互いさま』の世の中になることを願う。』という内容でした。

確かに、自分勝手な、あるいは軽率な言動等によって、他の人を困らせたり嫌な思いをさせることは厳に慎まねばなりません。しかし、人間誰しも、思わぬところで失敗や間違いをすることはあります。そんなときに、自己責任だといって単に突き放すのではなく、『お互いさま』の精神で、困っている人に手をさしのべることは大切なことであると思いますし、世の中の風潮として、そのような寛容な心が失われつつあることに危機を感じています。

高校生などの若者の中には、『他人に迷惑をかけるな』という声を意識するあまり、新たなことへのチャレンジに尻込みしてしまったり、困っている他人に助けを求めることができずに一人で抱えて苦しんでいるケースなどが多くあります。そんな若者に対し、私たち大人ができることは、『迷惑かけたっていいんだよ。だって、世の中はお互いさまなんだから』と、背中を押してあげたり、手をさしのべてあげたりすることではないでしょうか。

結びになりますが、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、これまで子どもたちを支え、見守り、ご指導くださった保護者の皆さん、地域の皆さん、誠にありがとうございました。さあ、卒業生の皆さん。思いやりの心と挑戦する勇気を持って、未来に翔いてください。

翔洋高校アラカルト

見学旅行

学校祭

前期体育大会

後期体育大会

三校クリーン大作戦

企業実習

調理実習

